

前回までの振り返り

意見交換テーマ：まちの「にぎわい」の創出と活性化について

Aグループ

【第1回】

■にぎわい創出の意見・提案

- ・年齢問わずに全員が活用できる場づくり
- ・参加型のイベントの開催。(野外フェス、パブリックビューイング(ジュビロのアウェイ戦など)、磐田でキャンプフェスなど)
- ・数万人規模のイベントを年数回、数千人規模のイベントを月開催、数十人から数百人規模のイベントを毎月開催する。
- ・近代的でシンボリックな建物の建設。
- ・ららぽーと磐田のように買い物など商業が組み込まれることが大事な視点。
- ・観光の充実。
- ・ジュビロ(サッカー・ラグビー)を活かしたまちづくり。
- ・中心市街地にお店が少ない。商売ができる町にすれば自然と人が集まる。そのための環境と場所の提供が重要。
- ・磐田市の文化財や名所、著名な方など、元々ある魅力を活かしきれていない。その魅力を活かしたまちづくりを進める。(街道や国分寺の整備、表示や案内板の充実、博物館や美術館の建設など)
- ・日常的な集客が必要。(釣り堀、子育て支援の施設、自由に使えるオープンスペース的なもの、フットサルができる体育館、地場に特化した小売店など)
- ・日常使いが基礎となつての大きなイベントの開催。
- ・地場産品の販売や道の駅など、中心市街地に人が集まるような仕組みが必要。
- ・中心市街地に定住・交流できるような場が必要。

■磐田市の現状・課題

- ・駅前に人がいない。
- ・今の市民文化会館が暗くて堅苦しいイメージ。近寄りがたい。
- ・ららぽーと磐田(郊外)が賑わっていて、中心市街地に魅力がない。

【第2回】

■にぎわいのある場所とは

- ・上岡田の飲食店が並んでいる通り
- ・浜松市のラウンドワンは若い人、家族連れが多くにぎわいがある

■磐田市の現状と課題

- ・大きい商業施設が郊外に出来て中心市街地が寂れてきている。中心市街地に大型施設をつくるとなると土地の確保など難しい面があるため、磐田らしさ(歴史、スポーツな

ど)を生かしたまちづくりが重要。

- ・中心市街地に定住できる、したくなるまちづくりを進めていかないと、イベントをやっても一過性に終わってしまう。
- ・場当たりの取組みより、持続可能な取組みが重要。
- ・大型商業施設など、利便性が郊外に移ったが、中心市街地のにぎわいを作らないと長続きしない。郊外の商業施設は、一時はにぎわいができるが、廃れると撤退も早い。
- ・磐田市は、イベントをやると地域密着で盛り上がっていると思う。一方で、住みやすさのにぎわいは表裏一体。にぎわいが生まれると渋滞など、住みにくさもあり別物だと思う。
- ・車が使え間は問題ないが、車が使えないお年寄りなどのことを考えると、歩いていけるまちづくりが必要。

■皆さんが考える“にぎわいがある”と“活性化”の状態とは

- ・文教施設がないと“にぎわい”は生まれにくい。飲食店だけでは夜は栄えるが昼は人が集まらない。学校、図書館、病院、公園など毎日の生活に関わるものが一つにまとまる地域づくりが重要。
- ・定住しないと栄えない。行政が長期的な視点で施策を打たないとダメ。
- ・生活の延長線上のにぎわいがある。その視点として、学校、大学などの文教施設が重要。

■人が住んでいることが要件ではあるが、どんな状態が理想か

- ・学校、公園、病院、子育て支援センターなど、生活の一部が溶け込んでいるまち。
- ・歩いていける距離に適正な施設が分散して配置することも重要。大型化して郊外に集中するやり方は限界にきている。
- ・地域で顔の見える関係づくりが“にぎわい”のあるまちづくりにつながる。助け合いの精神が大切。
- ・病院や学校、公園、図書館など人の行き交いがある視点が重要。

Bグループ

【第1回】

■遊び

- ・映画館 ・プール ・スポーツ ・科学館 ・博物館 ・美術館 ・展示室
- ・地元文化の保存館 ・天体研究室 ・水族館 ・動物園 ・花鳥園
- ・親子で楽しめる公園など ・子育て世代が集う場所

■商業施設

- ・カフェ ・買い物ができる場 ・直売所 ・早朝から開店している店舗

■ホール

- ・ライブ会場 ・グランシップのような大型施設 ・合同説明会ができる施設

■健康

- ・スポーツ ・健康づくりの場 ・老人福祉施設

■学習

- ・学生が自習できる施設(天平のまちのような施設)
- ・静かでゆっくりできる場所

■災害

- ・避難場所

■課題

- ・(現在の市民文化会館は)施設全体が暗いので明るい雰囲気にするべき
- ・近隣住民だけでなく市民全体が利用できる施設にするべき

【第2回】

- ・磐田駅周辺は、暗い雰囲気があることが課題である。
- ・明るい雰囲気にするためには、夜間でも人が集まりたいように灯り(明かり)が必要である。
- ・「ラウンドワン」のような遊びの施設は、街の賑わいを創出するためには必要。
- ・駅からジュビロード、市民文化会館跡地、今之浦公園に回遊性をもたせ、全体が盛り上がるような工夫が必要。
- ・地元住民だけでなく、磐田市全体から人が集まるように、交通機関を含めた動線の確保を検討する必要がある。
- ・休憩する場所がないと人は集まらない。スーパーのイートインスペースのようなものも必要である。
- ・市が単独で施設を整備しても良いものができるとは思えないし、市の維持管理費を減らすことも考えなければならない。民間の知恵と力を活用し、企業と連携して整備することが必要不可欠である。

Cグループ

【第1回】

■期待・提案(あったらいいな)

- ・IT 企業や有名事務所などの誘致
- ・職業体験・見学ができる場、学生と企業のマッチングができる場
- ・市民が趣味などで自由に利用できるスペース
- ・複数の飲食店などが出店できるブース、〇〇横丁(居酒屋、ラーメン、古本屋等)の整備
- ・子どもや若者が集まる施設、学習の場、学生が他校の生徒と交流ができる場
- ・高齢者にも利用しやすい施設
- ・幅広い世代が交流できる場
- ・児童館や子ども(小学生)の一時預かりをしてくれるところ
- ・自転車など趣味を活かした交流の場の整備
- ・災害時に防災の拠点、避難所として利用できる施設

■まちの課題

- ・他市との共同イベントができる場(他市町の人呼び込み)の創出
- ・御厨駅と磐田駅との連携、回遊性の確保
- ・駅から施設へのアクセスの途中に飲食店が少ない

【第2回】

「にぎわい」のあるまちや、まちの「活性化」のイメージについて

■人が多く集まる

- ・市外・県外から人が来るまち
 - ・外国人が来たくなるまち
 - ・地元に住たくなる・離れたくないまち
 - ・おしゃれな店や施設が多く集まるまち
- ⇒シンボリックな場所が必要、情報発信の工夫、市民が誇れる場所

■イベントの開催

- ・定期的開催
- ・企業とのタイアップ
- ・ターゲットを絞ったイベントを数多く開催

■企業との連携

- ・民間資本の導入
- ・お金が稼げる
- ・市と民間企業の連携

■雰囲気

- ・明るい
- ・解放感がある
- ・日常・日課の一部となる場所は賑やかである

- ・磐田らしい落ち着いた雰囲気
- ・多くの方が長い時間居たくなる

■優しい環境

- ・子育てしやすい
- ・子どもだけで外を歩いても不安にならない
- ・高齢者にやさしい(買い物など)
- ・趣味・仕事など生き生きと活躍できる